

家庭教育と子育て支援について

(1) みえ家庭教育応援プランに基づいた取組展開

少子化の進行や共働き家庭の増加など家庭を取り巻く環境が大きく変化する中、様々な家庭の実情に合わせて支援していく環境を作り、多様な主体が連携して取り組むため、平成28年度に「みえ家庭教育応援プラン」を策定し、平成29年度から具体的な取組を進めています。

このプランは概ね10年先を見据えた今後5年程度の期間に取り組んでいくものであり、基本理念や10の取組方策の他、複数の取組をとりまとめて注力する3つのテーマを「家庭教育応援プロジェクト」と位置付け設定し、市町や企業等と連携しながら横断的・総合的取組として展開しています。

(2) 「家庭教育応援プロジェクト」の取組

テーマ1 みんなで進めよう！子どもの基本的な生活習慣づくり

基本的な生活習慣の確立は、子どもたちの心身の健やかな成長、意欲の向上に不可欠であり、「生き抜いていく力」を育む基礎になります。このため、子どもの発達段階や保護者の関心の度合い、家庭の状況等に配慮した学習機会・情報の提供を通じて、各家庭における子どもの基本的な生活習慣づくりの取組が進むよう応援します。

＜主な取組内容＞

◎「生活習慣・読書習慣チェックシート」等の活用促進

「早ね早起き朝ごはん」といった基本的な生活習慣が身に付くよう県内の保育所や幼稚園において、3～5歳児を対象に家庭と連携した生活習慣チェックシートの活用を年3回実施しました。幼稚園の便り等で保護者にフィードバックし、親子で振り返る機会をもつなど家庭と連携して取り組んでいます。【子ども・福祉部、教育委員会】

小中学校においても、生活習慣・読書習慣チェックシートを配付し、年2回の集中取組期間を設けて児童生徒の生活習慣等の確立に向けた取組の促進を図っています。【教育委員会】

	平成27年7月	平成28年5月	平成29年5月	平成30年5月
保育所や幼稚園等のチェックシート実施状況	68.7%	85.8%	90.7%	89.0%

* 保育所や幼稚園等の職員の感想

- ・家庭の生活習慣を見直すにあたり、目標を持つことができ良いと思う。
- ・園が家庭の様子も知ることができ、保護者に対し具体的な指導もできるようになった。
- ・送迎時やクラス懇談会等で話題にあがり、保護者が関心を持って生活習慣の見直しをしようとする良い傾向が強くなっている。

* 保護者の感想

- ・兄弟と一緒に取り組むことで、自ら時間や約束を守るようになった。
- ・子どもががんばろうとするので、親も意識して手伝ったり援助ができたり応援できた。
- ・目で見てわかるので「やろう」と意識したり、自分で気をつける姿があり良かった。

◎家庭や地域の気運づくりや家庭への「学び」の提供

企業や団体と連携した「子育て応援！わくわくフェスタ」（11/23 実施約 4,000 人の来場者）など親子が集うイベントを通して、家庭での生活習慣の確立に向けた気運づくりを進めています。【子ども・福祉部】

就学前後の子をもつ保護者を対象に、「食べる」「寝る」「遊ぶ」の大切さを知っていただくため平成 29 年度に作成した「みえ家庭教育応援リーフレット」を活用し、市町や P T A、企業に啓発しています。また、幼少期における体験活動の大切さを啓発するためのチラシも作成し、関係機関に配布していきます。【子ども・福祉部】

親同士が子育てについて話し合い、自らの役割や成長に気づき学ぶための学習コンテンツ「みえの親スマイルワーク」（妊娠期の家庭から小学生の子を持つ親を対象）を市町や三重県 P T A 連合会（(一社) 三重県 P T A 安全互助会）と連携し、就学時の健診や説明会、学校や P T A の行事等での活用をすすめるとともに、ファシリテーターの養成（スマイルリーダー）を行っています。（連携によるスマイルワーク実施 H30 8 回約 500 人、スマイルリーダー養成 H30 49 人：11 月末現在）【子ども・福祉部、教育委員会】

テーマ2 つくろう！家庭教育を応援する地域のネットワーク

地域で孤立しがちな家庭など、支えを必要としている多様な家庭に応じた取組を進めるため、市町と連携し、各地域それぞれの強みや特徴を生かした家庭教育応援のためのネットワークの構築を図るとともに、その横展開を図ります。

<主な取組内容>

◎家庭教育応援モデル事業によるネットワークづくりの推進

平成 29 年度から取り組んでいる亀山市、名張市、玉城町に鈴鹿市と尾鷲市を加えて家庭教育応援モデル事業を実施し、既存の会議や組織の活用など地域資源を活かしながら、地域ボランティア、N P O 団体等と連携するとともに、子どもの育ちを支えるネットワークづくりを進めています。【子ども・福祉部】

亀山市	福祉部局と教育部局が連携するとともに、適応指導教室の学習支援等の活動を行っている N P O と関わり合いながら、家庭教育応援の取組を進めており、モデル事業を活用して連携の必要性を学ぶ研修会を実施している。
名張市	市内の家庭教育講座に関わってきた市民が、モデル事業で実施しているスキルアップ講座を受講し、民生児童委員等が開催している地域の広場に参加している保護者に対して、家庭教育スタッフとして相談支援活動を行っている。子育て支援関係者養成のための講習会を実施し、地域の広場等で親子に関わり、相談を受け関係機関に繋げている。
玉城町	「ブックスタートあかちゃん訪問」や転入者を対象とした訪問、保育所での出前講座を通じた保護者と支援者の顔の見える関係づくりを進めている。また、保護者に寄り添う民生委員や子育て支援関係者を対象とした人材育成及びスキルアップ講座も実施している。

鈴鹿市	子育て支援センターや地域団体等の支援者、放課後子ども教室の関係者等に対して、家庭教育応援につながる講座を開催し、市内で積極的に活動していく人材の育成を図っている。受講後には人材バンクの構築をめざし、今後の家庭教育応援の活用につなげていく。
尾鷲市	モデル事業の講座を通して、子育て支援や家庭教育応援に関心の高い市民を中心に人材の育成を図っている。受講者は、市民サポーターとして各地域や各自の所属団体において家庭に講座への参加を呼びかけ、地域における取組を展開している。

◎関係者の情報共有の場の設定や人材の養成など

市町と家庭教育応援推進連携会議を設置し、研修会の開催やモデル事業の報告、行政とNPOの連携の事例発表など、情報の提供や共有を図っています。【子ども・福祉部、教育委員会】

子育て・子育てマイスター養成講座を3市町、孫育て講座を3市町で実施し、地域性や実態に応じた人材の養成を図っています。また、受講者を対象に、地域で継続した取組になるよう、地域単位でフォローアップ研修会及び情報交換会も行います。

また、支えを必要とする家庭に寄り添う「家庭教育支援チーム」の国への登録をすすめています。(H30.11末現在登録済2団体、申請中1団体)【子ども・福祉部】

テーマ3 応援しよう！企業と連携した家庭の教育力アップ

企業は、その従業員や業務を通じて家庭とのつながりがあり、連携して家庭教育の応援に取り組むことには、大きな意義があります。このため、企業の理解を十分に得て、社会意識の変革や、気運づくり、家庭教育応援の取組などに参画いただくよう働きかけます。

<主な取組内容>

◎イクボスや男性の育児参画の推進

すべての家族に優しい三重県の実現に向け「みえのイクボス同盟」に賛同する企業を中心に働きかけを進めており、これまで市町や企業と連携した「イクボス養成講座」を実施するなどイクボスの推進に努めてきました。平成30年度には、県と一緒にイクボスや働きやすい職場づくりについて県内企業等へ広めていただくため、イクボスに対する正しい認識や実践への適切な助言等ができる人材を養成し、「みえのイクボス伝道師」として認定する事業を実施しています。

また、第5回ファザー・オブ・ザ・イヤーinみえ(H30年度 651件の応募)を開催し、育児に取り組む男性やイクボスの優良事例を表彰し発信するとともに、男性の学びの場として地域や職場における「男性の子育て応援講座」を開催(年10回)しています。【子ども・福祉部】

	平成 28 年 4 月	平成 29 年 12 月末	平成 30 年 11 月末
イクボス同盟加盟企業団体数	76	147	176

【総務省 社会生活基本調査】	平成 23 年		平成 28 年	
6歳未満の子どもがいる世帯 の夫の育児時間	全国	39分	全国	49分
	三重県	35分	三重県	53分

*全国 10 位、伸び幅は全国 7 位

◎ワーク・ライフ・バランスや企業との連携など

誰もが働きやすい職場環境づくりに向け、働き方改革キックオフセミナー（H30. 6. 19、168 名参加）や働き方改革 業界向けセミナー（H30. 8. 10、H30. 8. 20、合計 3 回実施、95 名参加）を開催するとともに、「みえの働き方改革推進企業」の登録・表彰を実施（44 社登録、4 社表彰）しました。【雇用経済部】

みえ次世代育成応援ネットワーク（企業 914 社、子育て団体等 655 団体、合計 1,569、H30. 11 現在）において、多くの企業や団体と連携し「子育て応援！わくわくフェスタ」の開催など子どもの豊かな育ちを応援する取組を進めています。【子ども・福祉部】

(3) 各テーマのまとめと方向性

① テーマ 1 みんなで進めよう！子どもの基本的な生活習慣づくり

小中学校での取組だけでなく、就学前の早い段階から生活習慣の定着が進むよう、多くの保育所や幼稚園等で生活習慣チェックシートの活用が図られ、家庭へのフィードバックも進められました。

今後さらに、多くの家庭で取り組まれるよう、様々な機会を通じて家庭教育の必要性を保護者へ届けることが必要と考えます。

② テーマ 2 つくろう！家庭教育を応援する地域のネットワーク

モデル事業を通じて、地域の実情や地域資源を生かした地域のネットワークづくりが様々なパターンでできつつあり、こうした事例を市町との担当者会議等を通じて、情報交換を進めています。

また、「家庭や地域との関わり」と「子どもの自己肯定感」の間に関係性が見られることから地域における取組が重要と考えられます。一方で、市町での家庭教育の取り組み方に温度差も見られるため、県内全域での地域のネットワークづくり等の取組の展開が課題となっています。

③ テーマ 3 応援しよう！企業と連携した家庭の教育力アップ

関係部局と関係機関とともに、ワーク・ライフ・バランスや男性の育児参画などの企業と連携した家庭教育応援の取組を進めています。

しかし、「イクボス」の認知度も低く、家事・育児に要する時間は夫婦により大きな差があることから、引き続き企業と連携し啓発や具体的な取組を進めていく必要があります。